

# 鴨居杉山神社

祭神

日本武尊

天照大神（明治三十九年合記）  
八百六坪（二六六一平方米）

御由緒

当神社は宝徳元年（皇紀二一〇九年・西暦一四四九年）の創建であり、それ以来この場所（鎮座）にあり、神社明細表には「明治八年十二月村社（旧社格）に列せられたり、明治二十四年五月五日新明社・稲荷社を合併せり」と記載されている。杉山神社は鶴見川水系（帷子川を含む）を中心として集中しており「新編武蔵風土記稿」によれば七十二社あると云われているが、多摩川を越えた北側には全く分布を見ない。霊験あらたかな神社として往時この様に数多く建立された様である。延喜式の神名帳には唯一の延喜式内社として記載されているが、どの神社が該当するのか定かではない。

当鴨居は数十年前迄、戸数九十戸に満たない純農村であったが、創建の昔より大切にお護りして来た鎮守様であり、今後心より大切に御守りして尚一層、崇敬の念を新にしなければならぬ。側社として裏山の中腹に、大山阿夫利神社・榛名神社をお祀りしてある事を附記して御由緒とする。

平成十四年九月二十九日  
（皇紀二六六二年九月二十九日）

鴨居杉山神社  
鴨居杉山神社奉賛会



## 敬神生活の綱領

- 一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し  
明き清きまことを以て祭祀にいそむこと
- 一、世のため人のために奉仕し神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一、大御心をいただきてむつび和ぎ  
国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

神社本廳統理 徳川宗敬

## 鴨居天満宮

明治の中頃、岩岡時次郎の姉妹が産後の肥立ちが悪く、禱んでもらったところ、天満宮と馬頭観音を祀ったら良いと言われた。九州の太宰府天満宮に行つて相談した結果、御分霊してもらい、明治三十九年（一九〇六年）に代表七人により祀られ、太宰府天満宮宮司により入魂されたと伝えられている。以前は鴨居五丁目にあつたが、都市計画道路の関係で平成十八年九月に鴨居杉山神社境内に遷座した。





# 絵馬

生馬を神霊に供える儀式は古くからあった。  
奈良時代になって生き馬に代わり、板馬、絵馬が登場した。  
木製馬形の献上が一般化したのは平安時代である。  
形は様々であるが、関東では屋根型が多い。  
鴨居では、杉山神社に大絵馬2枚、中絵馬4枚が残っている。

**大絵馬** 嘉永4年(1851年)奉納 願主は、鴨居村 恵比寿講中十三人

「国姓爺合戦」和藤内の虎退治の段  
絵師「歌川国喜三吉」



「鬼一法眼六韜三略」の段  
絵師「歌川宗近」



**中絵馬** 全て絵師不明

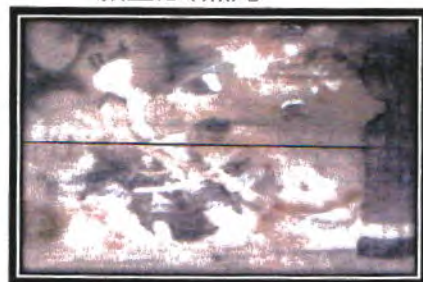
「須佐之男命の八俣大蛇退治」の段  
安政二年(1855年)奉納  
願主は、加山佐左衛門



「楠公父子の別れ」の段  
安政四年(1857年)奉納  
願主は、加山



「牛若丸と弁慶」合戦の段  
慶応三年(1867年)奉納  
願主は、黒滝



「拝み」の段  
奉納年・願主不明

